



特集 地域との共創 持続可能な駅づくり ~ekinico~

各地で駅の利用者減少や無人化が進む中で、駅舎の点検や修繕・更新を担当する鉄道建築チームは、にぎわいを失いつつある駅舎は老朽化の進行も速いことを実感していました。駅ににぎわいを取り戻し、駅舎にも長生きしてもらいたいという思いから2021年に「ekinico」が始まりました。

現在は5カ所の駅で展開

「ekinico」は「駅」という言葉に「駅でにっこり」、「駅にいこう」というポジティブなメッセージを掛け合わせた造語です。鉄道建築チームが駅舎の価値や活用の方法を検討し、地域の事業者の方にアプローチを行います。併せて、自治体や地域の方々と連携し、持続可能な駅・地域のにぎわいづくりを推進します。

事業者の方からは、駅舎内の利用スペースにかかる賃貸料や利用料、イベント収入の一部をいただく一方で、JR九州がその運営をサポートしています。

2025年4月現在では、南久留米駅をはじめとした5カ所の駅で展開しています。



今後の見通し・課題

2025年度に鉄道建築を所管する工務部で組織改正を実施して「ekinico」の推進体制をより充実したものとし、これまで以上に地域と積極的に関わりながら対象駅を拡大していきます。また、対象駅でのイベントの企画や増収施策に取り組み、出店後も事業者の方をサポートする取り組みを進めていきます。

事例紹介

久大本線の南久留米駅は久留米中心市街地に近いものの、利用の減少に伴って2022年に無人となり、駅事務室は使用されていない状態が続いていました。一方で、建設当初から残る部材も多い趣のある駅舎であることなど、独自の魅力が多くあると判断し、2023年10月より駅事務室の利活用について検討を開始しました。利用が少ない駅での集客などのリスクもありましたが、プロジェクトに賛同してくださった地域の人気店が出店していただけることになり、シェアキッチンとして2024年12月にオープンしました。現在は5つの事業者の方が日替わりで営業しています。併せて、近隣の大学などと協働し駅の活性化につながるイベントなどを企画しています。



事業者の方の声 (Spoonさま)

南久留米駅は学生時代から利用していたため、お声がけいただいた際にはご縁を感じ、地元の間人である私の使命ではないかと思えました。地域の皆さまからのお声を反映させながら、皆さまと歴史ある南久留米駅の新たな魅力を切り開きたいと思えます。

